

# 『「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指すプロフェSSIONAL人材の育成』 ～佐用風土(Sayo Food)を活用したモデルプランの構築～

## 「食」に通じた、佐用を支えるプロフェSSIONAL人材の育成

- 「佐用風土(Sayo Food)」で食改善！
- 「高校生訪問サービス」で高齢者に笑顔！
- 「保存食・非常食」で災害に強い安全安心な町づくり！

絆できらめく ひと・まち・自然  
未来へつなぐ 共生の郷  
～わたしたちの手で作るわたしたちのまち佐用～



学年	付けた い力	佐用の特産品を活用 (商品開発・食育活動・ 開発商品の広報・販売活動)	佐用で暮らす人を守る (高齢者食生活調査・ 食改善レシピ開発)	佐用の水害から学ぶ (災害時保存食開発・ 避難時支援者育成)	開発目標
3年	探究 発展力	フードスペシャリスト (高校生カフェ・ レシピ本発行)	ヒューマンサービス (高校生訪問サービス)	ヒューマンサービス (減災対策の提言)	●最終成果発表 (商品、レシピ本等) ●検証と成果普及方 法の確立
2年	探究 実践力	課題研究 (「佐用風土(Sayo Food)」を使った商品開 発・食育活動)	ヒューマンサービス (地域課題改善策の 提言)	フードデザイン (保存食・非常食開発)	●校外外での中間発 表等の実施 ●フィールドワーク
1年	探究 基礎力	フードデザイン (基礎学習・食育活動)	生活産業基礎 (地域実態調査)	総合的な探究の時間 (防災学習・佐用学)	●カリキュラムや評 価等の研究・開発 ●PDCAサイクルの 確立

「食」を通じた課題解決

### 佐用町課題解決3方針

- 佐用の特産品を活用 (商品開発・マーケティング)
- 佐用で暮らす人を守る (健康寿命延伸)
- 佐用の水害から学ぶ (安全安心な町づくり・災害レジリエンス)

### 佐用高校課題解決3施策

- 「佐用風土(Sayo Food)」商品開発
- 「高校生訪問サービス」実施
- 「保存食・非常食」開発

#### 佐用町の強み

- 「播磨国風土紀」が記す歴史と伝統
- 肥沃な土壌
- 兵庫・岡山・鳥取を結ぶHUB TOWN

#### 佐用町の弱み

- 老年人口率40% (全国平均の1.5倍)
- 急激な人口減少 (5年間で半減)
- 大規模河川災害

#### 改善への取組

- 地元特産品のブランド化＝「佐用風土(Sayo Food)」
- 「健康寿命の延伸」に向けた取組
- 「減災への対応力のある」まちづくりの推進

#### 佐用町が求める人材

- 健康寿命延伸の取組を通して、ローコスト・ハイクオリティ社会の構築に貢献できる人材
- 非常食、保存食の開発を行うなど、「食」を中心とした安全・安心で災害に強い町づくりを自治体等に提言し、貢献できる人材
- 伝統食、地域特産品を使った商品開発に取り組むことを通じて、主体的に地域活性化に貢献できる人材

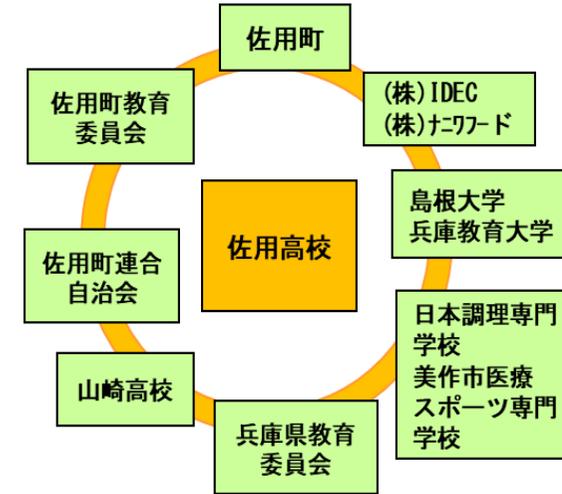
#### 佐用高校の取組

- 「佐用風土」を使った商品開発と販売→地域活性化・貢献
- 伝統食の継承と保育所や小学校での食育活動
- 子育て支援センターや介護施設での交流会、佐用町社会福祉協議会と連携した給食サービス等のボランティア活動

#### 佐用高校家政科が育成する人材

- 専門科目の知識と技術を磨き、自ら生き方をデザインできる人材
- 日本古来の伝統文化教育を中心とした教養を身につけ、豊かな心を持った人材
- 地域に根差し、社会に貢献できる人材

## 【コンソーシアム】



## 【事業対象学科の生徒数】

学 科	1年	2年	3年	計
家政科	40	36	33	108

## 【学校全体の生徒数】

学 科	1年	2年	3年	計
農業科学科	40	34	36	110
家政科	40	36	33	108
普通科	120	106	114	340

佐用高校家政科  
マスコットキャラ  
うっちゃん



地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要  
(令和2年度 新規指定校)

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつきょうこうとうがっこう					
令和2～最大3年間	①学校名	兵庫県立佐用高等学校				②所在都道府県	兵庫県
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	創立111年目の伝統校である。各学年とも普通科3クラス、農業科学科1クラス、家政科1クラス。	
家政科	40	35	33		108		
⑥研究開発構想名	「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指すプロフェッショナル人材の育成～佐用風土（Sayo Food）を活用したモデルプランの構築～						
⑦研究開発の概要	本研究は「食」を中心に①特産物による商品開発②健康寿命の延伸③安全・安心な町づくりの三本柱で展開している。これまでも特産品を使用した商品開発には取り組んできたが、事業を通じて伝統料理、保存食へと発展させる目的がある。販売が主目的ではなく、「食」を通じて「佐用風土（Sayo Food）」と地域人材を活用し、健康の見直しや災害時対応などで町を活気づける。その中で、伝統料理や保存食を「高校生訪問サービス」等の実習で高齢者に提供するなど地域と協働するために、履修科目の新規充実を図り、学校設定科目の活用でカリキュラムマネジメントを行い、生徒の学びと地域課題の解決につなげる。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>【目的】</p> <p>佐用町は、老年人口率40%（全国平均の1.5倍）という現状に加え、平成21年台風9号の豪雨被災の教訓を生かし、地域の活性化と安全・安心で充実した暮らしができる町に進化させることが課題である。本校もこの課題を認識し、町と協働で活性化・貢献活動に取り組んできた。この事業では地域特産品や伝統料理、健康食といった「食」を中心に町と連携している「佐用風土（Sayo Food）」に関する取組を発展充実させ、「ローコスト・ハイクオリティ社会」の実現に貢献するとともに、「高校生訪問サービス」等の実習や探究活動を通して地域を支えるプロフェッショナル人材を育成するカリキュラムモデルプランを構築する。</p> <p>【目標】</p> <p>①地元の特産品を使った商品開発を通して地域活性化に参画できる人材の育成。          現在、産官学協働で地元特産品を使った商品開発に取り組んでいるが、さらに上級学校との連携で、地域資源を活用した地域活性化に主体的に取り組む生徒を育成する。</p> <p>②健康寿命を延ばすための地域福祉活動に参画できる人材の育成。          高齢者向けレシピの考案、体力作り啓発活動、食生活・食育指導等健康寿命を延ばすための取組を通して、地域福祉に貢献できる生徒を育成する。</p> <p>③安全・安心で災害に強いまちづくりに参画できる人材の育成。          地域と上級学校と連携して災害・被災時の課題を理解し、保存食・非常食の開発を行うなど、「食」を中心に取り組むことで、災害に強いまちづくりに貢献できる生徒を育成する。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>【現状の分析】</p> <p>本校は、佐用郡内唯一の高等学校であり、「まちを支える人づくり」をテーマに地域連携・貢献活動に取り組んできた。家政科は、以前から「佐用風土（Sayo Food）」を使った焼菓子やジャム等の開発を行っており、これらの商品は地域のイベント等で生徒たちが販売を行い、地域の活性化に役立ってきた。また、地域食育ボランティアとの連携で伝統食を学び、保育所や幼稚園、小学校での食育活動を行っている。昨年からは佐用町社会福祉協議会と協働し、独居高齢者の給食サービスにも取り組んでいる。</p>					

	<p><b>【研究開発の仮説】</b>          コソシアムと連携して特産品を活用した商品開発・食改善レシピ・防災食開発等を行う中で「食」への学びを深めるとともに、課題発見・解決力、プレゼンテーション能力等を身に付け、地域課題である健康寿命延伸、災害に強い町づくりへの改善策の提言を行い、その推進に取り組む。また、地域住民の生活状況等を分析・考察し、「高校生訪問サービス」等の取組を通してボランティア精神・コミュニケーション能力等を身に付け、地域課題である高齢者が充実した暮らしのできる町づくりに向けた提言・実践を行い、積極的に地域福祉に参画し活力ある町づくりに取り組む。これらのことを通じて地域活性化を実現できるとともに「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指すプロフェッショナル人材の育成ができる。</p>
<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p><b>【1学年】</b>          佐用町の調査研究を通じて地域課題を考える。「食」を中心に特産品・健康寿命・防災に關しての知識・技術における基礎的能力の習得を図る。          「総合的な探究の時間」「生活産業基礎」「フードデザイン」</p> <p><b>【2学年】</b>          調査研究を深め、商品・レシピ開発や「高校生訪問サービス」等の協働事業を行う。少子高齢化等の地域課題解決に向けた探究・実践活動を行う。          「生活と福祉」「生活産業基礎」「課題研究」「フードデザイン」「ヒューマンサービス」</p> <p><b>【3学年】</b>          新たな学びの中で調査研究を総括し、地域が求める人材としての進路実現を行う。研究成果を踏まえ、地域課題解決のための提案と実践を行う。          「保育基礎」「伝統文化」「課題研究」「フードデザイン」「ヒューマンサービス」「フードスペシャリスト」</p> <p><b>【学校家庭クラブ活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあいの里上月」にて地元食材を用いた焼菓子定期販売を通じた地域活性化。</li> <li>・佐用郡内各町主催イベントにおける地元食材を用いた焼菓子販売活動を通じた地域交流。</li> <li>・県内各種イベントでの販売・体験活動を通じた佐用町PR活動。</li> </ul> <p>(2) カキユラムマネジメントの推進体制          本事業を運営するため、校内組織に「地域協働部」を、校内委員会に「地域協働事業推進委員会」をそれぞれ新たに設置した。「地域協働事業推進委員会」は、本校教職員にカキユラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を加えた構成で、コソシアム内の「佐用風土（Sayo Food）」、健康福祉、防災教育推進の三つの小委員会、校内組織のビジョン委員会、教育課程委員会、キャリア教育推進委員会と連携・協働して、「インターシップ」や「ヒューマンサービス」等の教育内容、「高校生訪問サービス」「高校生カフェ」等の体験活動や探究活動の充実に向けた協議・検討を行い、地域を支えるプロフェッショナル人材を育成するカキユラムモデルの構築推進に取り組む。          また、生徒の探究活動に対しては、全ての教職員が積極的に関わっていく。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等          なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>指定終了後も、本事業の取組を持続可能なものにするために、県独自事業「ひょうごスーパーハイスクール」の指定を受ける等、一定の事業経費を計上して、支援することができる。また、「ひょうごふるさと貢献・活性化事業」やクラブファンディングによる経費の捻出、佐用町からの貸切バス提供等も活用し、発展的に実施することができる。</p>

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。

## 【研究開発の実施体制】

管理機関名：兵庫県教育委員会

### 1. コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者氏名
兵庫県教育委員会	高校教育課参事 桂 敦子
兵庫県立佐用高等学校	校長 西坂 美樹
佐用町	町長 庵途 典章
佐用町教育委員会	教育課 教育推進室長 大野 公嗣
IDEC 株式会社	社長 船木 俊之
ナニワフード株式会社	社長 松田 良彦
島根大学	教授 作野 広和
兵庫教育大学	教授 永田 智子
日本調理専門学校	校長 水野 博
美作市スポーツ医療専門学校	校長 黒瀬 通弘
兵庫県立山崎高等学校	校長 武田 由哉
佐用町自治会連合会	会長 井上 洋文

### 2. カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員の体制

区分	氏名	所属	備考
カリキュラム開発等専門家	作野 広和	島根大学 教授	②
カリキュラム開発等専門家	永田 智子	兵庫教育大学 教授	②
海外交流アドバイザー	なし	なし	
地域協働学習実施支援員	久保 正彦	佐用町役場 職員	②

※「備考」欄には、本事業における活用の形態別に①～③のいずれかの番号を記入すること。

- ①常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校で常時勤務する者
- ②非常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校では常時勤務するものでない者
- ③ボランティア：本事業のために活用されるが、管理機関又は指定校から賃金・謝金等の支払がされない者（①又は②に該当する者を除く。）

### 3. 運営指導委員会の体制

所属	役職	氏名
兵庫県教育委員会	高校教育課長	西田 利也
佐用町役場	企画防災課長	服部 憲靖
佐用町教育委員会	教育長	浅野 博之
兵庫教育大学	教授	岸田 恵津
IDEC 株式会社	グリーンソリューション事業部長	田和 久典

### 4. 経費

区分	金額（千円）	備考
委託費	6 3 3 8 千円	
管理機関よる負担	0 円	
その他	0 円	

※「その他」の欄を記入した場合には、備考欄に「寄付金」等内容を記入すること。

5. 本研究開発実施のための自財源確保の工夫（※該当する場合は、回答欄に○印を記入すること）

区分	回答
本研究開発実施のために、企業版ふるさと納税制度を活用している	
本研究開発実施のために、ふるさと納材制度を活用している	○